

No.126



竹内 清明

安政5年(1858)弘前に生まれ、黒石に転住。  
 明治41年、衆議院議員に当選、藩政の懸望により、青森県国民院を解散して政友会に合同、黒輪をまとめた県国営の各大事業を実施させました。岩木川改修高橋工事の一つです。

竹内清明  
(52cm x 37cm)

No.127



阿部 武智雄

文久元年(1861)北津軽郡七和村羽野木沢(現五所川原市)生まれ。師範学校を卒業して教職にあったが、明治40年、県会議員に当選しました。同42年、阿部氏はほか12議員の主張で岩木川改修促進の建議が県会で異議一致で可決され、政府に提出されました。翌43年、津軽1市4郡の県会議員、市町村長に賛成派議員及び有志を加えて岩木川改修期成同盟会を結成、阿部氏が初代会長となり尽力しました。また、大正6年に衆議院議員に当選し、翌7年、国直轄工事の着工が実現しました。

阿部武智雄  
(52cm x 37cm)

No.128



長尾 角左衛門

明治13年(1880)、北津軽郡三好村(現五所川原市)生まれ。  
 明治40年には北津軽郡会議員、大正2年三好村会議員、同7年県会議員、昭和20年には三好村長、同29年に五所川原市議会議長などの要職を歴任しました。その間、明治43年には岩木川改修期成同盟会の創立に参加、昭和7年からは同会長として同23年まで在任、長期間にわたり心身を傾けてその改修事業にあたりました。その任を退いた後も岩木川に対する愛護は少しも衰えることなく、昭和64年には治水事業功労者として日本河川協会から表彰されています。そして、同22年ころから資料を集め始め、18年の歳月をかけて同40年12月、『岩木川物語』を書きあげました。85歳でした。同書は、岩木川に関する貴重な資料の集大成として、高く評価され、今日も活用されています。

長尾角左衛門  
(52cm x 37cm)

# その他

河川についての色々なこと、洪水・水害やその対策についてのこと、大正・昭和初期の写真、風景写真などについてパネルとしてあります。

No.129

## これからの川づくり

### ◆河川法改正の流れ◆

近代河川制度の誕生  
 治水・利水の体系的な制度の導入  
 治水・利水・環境の総合的な河川制度の整備  
 治水・利水の体系的な制度の導入  
 治水・利水・環境の総合的な河川制度の整備

明治29年 河 法  
 昭和9年 河 法  
 平成29年 河 法

河川法改正の主なポイント	
① 河川環境の整備と保全	改正事項
② 新しい河川整備の計画制度	基本方針と整備計画に区分し、住民の意見を反映
③ 治水対策の円滑化	調査の円滑化、情報統制、手続きの簡素化
④ 治水事業の促進	河川料、ダム資料の整備化
⑤ 水質事故処理対策	関係者の移行及び負担
⑥ 不法侵害対策	不法侵害船舶の売却、廃棄等の手続き整備

これからの川づくり  
(74cm x 52cm)

No.130

## 新しい河川整備の計画制度

### 旧制度 vs 新制度

旧制度  
 河川整備計画  
 内容: 基本方針、調査、治水対策、治水事業の促進、治水事業の円滑化、治水事業の促進

新制度  
 河川整備計画  
 内容: 基本方針、調査、治水対策、治水事業の促進、治水事業の円滑化、治水事業の促進

河川整備計画の策定の流れ  
 河川整備計画の策定  
 河川整備計画の策定

新しい河川整備の計画制度  
(74cm x 52cm)